

第2回 卒業設計コンクール展

最優秀賞

東京理科大学建築学科

佐野 健太

Quater Latin de Tram

～ドラムが駆け巡る大学都市の提案～

□受賞にあたり

大学は都市とともにあるべきである。こうした認識のもと、郊外型キャンパスを再び都市へと還元する計画を提案しました。

敷地は早稲田。現在所沢にある人間科学部とその他需要が発生するとおもわれるプログラム、すなわち図書館、研究施設、美術館という合計4つのプログラムを内包する4つの建築群を早稲田の街に点在するかたちで設計します。

さらにそれらを結ぶ移動インフラとして路面電車の活用ということを考えました。早稲田は現在都内に残されている数少ない路面電車の終着駅でもあります。この点に着目し都電荒川線を終点早稲田駅からループ状に延伸させ一部環状線とするような操作を加えました。つまり、路面電車が大学都市を駆け巡ることによって大学と都市との密接な関係を取り戻す。これこそが私の卒業設計における最終目的なのです。

■審査評

都市生活に都電を選んだところがよい。また独立的に存在感のある大学と周辺の街を都電で有機的につなぐ発想が興味深い作品である。大学と会社との関係が移動手段によって計画されている。



優 秀 賞

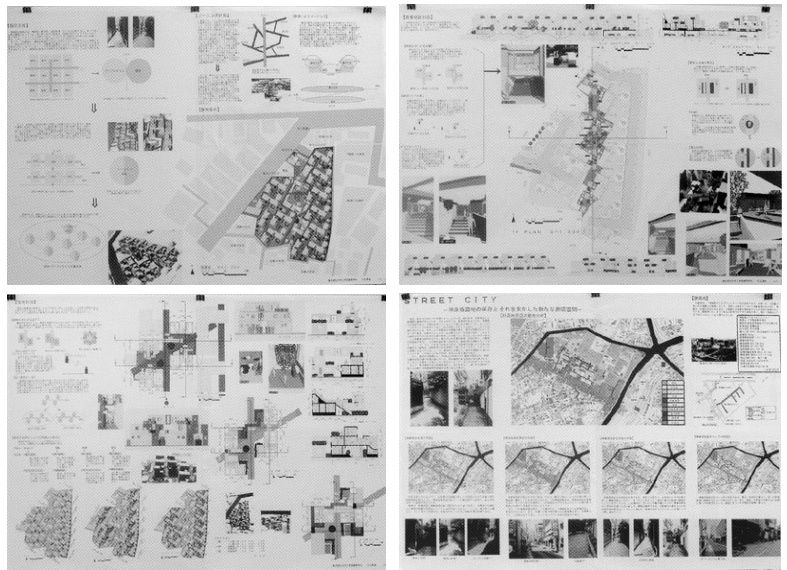
東京理科大学建築学科
中込 英樹

STREET CITY

神楽坂路地の保存とそれを生かした新たな界隈空間

■審査評

街づくりの再構築として、構成する手法はよく使われているが作品としては、よく調査されたおり、ていねいに仕上がっていると思われる。



■審査評

今回の作品では、駅関連のプロジェクトが多く出展されている。新宿は「大都会」「24時間眠らない街」など別の顔をもっている。 新宿駅の大規模な開発としては、企画とのバランスにもこだわりがほしい。

